谷戸の風 ㊺

日本の春

山内静夫

木版画　藤本宿

暦の上からでも三月と言うと〝春〟を感じるものだが、どっこい、簡単にはそうはいかない。今年も正にそうである。二、三日バカに暖かな日があったが、三月十日を過ぎてから寒さが逆戻りしてきた。三寒四温というような古い言葉が言われたりしたが、実状は四温の方がなかなか顔を見せず、関東でも時折雪がちらつくような日が何日かあった。気持も体も一端緩んでしまうと、なかなか逆戻り出来ないもので、余計に寒さを感じる。

就中三月十五日の日の寒さはこたえた。日課のように家の前の私道を歩くことにしているが、この日だけはあまりの風の冷たさに予定の半分で退散した。

それにしても、総体に日本の気候はどうなっているのか、四季の移り変りの何とも言えない〝いい日和〟というのが無くなってしまいそうで寂しい。暑い寒いしか表現することばがいらないのでは、この美しい自然をもつ日本という国が勿体ない。俳句歳時記を持ち出すまでもなく、日本語の微妙なニュアンスをもった詞が数えきれない程ある筈だ。日本語の美しさこそ、日本の国土の美しさに他ならないと思う。

今の日本は、残念ながら、美しいものが社会、文化から消えていってるように思えてならない。今の日本に、或いはこれからの日本で美しいものを求めるなら、スポーツの世界ではないだろうか。若いアスリート達がそれぞれの道で、一途に己のなしうる事を追い続けて精進する姿、枚挙に暇ないが、その若さ溢れる姿こそ、美しいものに違いない。徒らに、金メダルを目指すだけの姿は、美しくないが。

撮影でまちの魅力を体感

パナソニック社が葉山町と連携

町を歩いて撮影を行い、ネット上に画像投稿をしながら葉山の魅力を体感する「フォトフェス『いつかは葉山へ』」が3月5日、葉山しおさい公園で開かれた＝写真。

東京五輪のスポンサーでもあるパナソニック社と葉山町が、同町の魅力発信を目的とする事業展開をしていくことで連携・協力協定を2月15日締結し、それに基づく初の企画。

参加者約40人は、写真家佐藤仁重氏のアドバイスを受けた後、用意された同社製のカメラで、公園を基点に海岸沿いのエリアを撮影。画像はインスタグラム上に投稿され、コンテストが行われた。審査結果を待つ間、園内の茶屋で同社の最高級オーディオから流れる音楽や、日本一のバリスタと日影茶屋のスイーツを楽しむコーヒー講座で交流を深めた。

約3百点の応募作品から上位5点が表彰され、カヌーを漕ぎだす人々をカラフルに捉えた横浜市在住の朴繁さん（49）が優勝した。（K）

長老が語る戦争の爪跡

接収前の池子の暮らし

逗子市の米軍池子住宅地区の共同使用地約40㌶は、「池子の森自然公園」として昨年3月、土日休日限定で緑地エリアが開園し1年を迎えた。

3月18日、同園で逗子市池子接収地返還促進市民協議会（菊池俊一会長）主催の研修会「接収前の池子の森の暮らし」が行われ約15人が参加。現地見学しながら幼い頃に同地域に住んでいた80歳前後の市民3人に話を聞いた。

1938～45年に接収地から強制移転させられたのは69世帯。当時の柏原地区に住んでいた鈴木久彌さん（81）は「この土地のことを語れるのは私が最後だと思う」と話し＝写真、物資不足で建物を建設できなくなった軍が谷戸のやぐらを利用して軍事施設を作ったこと、「4カ月以内に立ち退きを命ず」という紙1枚の通達に逆らえず、先祖伝来の土地を奪われた柏原12軒の強制移転の経緯、造成工事に従事させられていた中国・朝鮮・台湾などの外国人との関わりなどを語った。鈴木さん宅の冠木門は鷹花記念公園の郷土資料館に寄贈移築されている。

鈴木さんは「少ない予算では自然を守れない。全面返還でなく共同使用の形で良いと思う。市民が知恵を集め、汗を流して利用していく姿が理想」と故郷を未来の市民の力に託す重みある言葉で研修を締めくくった。（K）

【寄稿】地球倫理推進賞を受賞

鎌倉てらこや事務局　小木曽駿

第20回地球倫理推進賞贈呈式（一般財団法人倫理研究所主催）が2月25日、新横浜プリンスホテルで行われ、鎌倉で小・中学生を対象に地域総がかりでの青少年育成事業に取り組むNPO法人「鎌倉てらこや」（上江洲愼理事長）が、国内活動部門で受賞した＝写真。

鎌倉てらこやは、2003年に設立、鎌倉ならではの文化や伝統を活かした建長寺や光明寺での合宿や、行政と連携しての学童保育施設のサポートなど、様々なプログラムを提供している。

上江洲理事長は、「地域全体で子どもを見守り育くむ『てらこや』を通して、自分らしく社会を生き抜く力を一人でも多くの子どもたちに身につけてほしい」と語った。

文学つれづれ ㊾

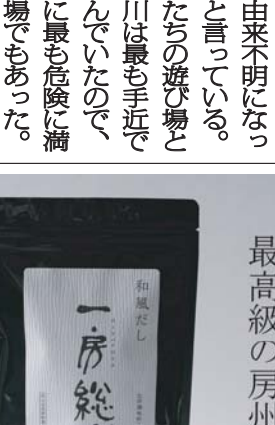
『桃太郎と一寸法師』（5）

赤羽根龍夫

だから私は、惨めな捨て子、または日の目を見ずに死んだ胎児が、川を流れて行ってどこかで拾われて、やがて大きく成長して立派な若者になっているにちがいないという、子を捨てた母の願望がなければ、日本の「小さ子」の話は生じなかったのだと主張したいのである。

あるいはそう考えなければ子供がかわいそうで、そして自分がみじめで生きてはいけない、母の暗い情念の中から「小さ子」は蘇生したのだと言いたい。外から説明するだけでなく、我々自身の情念の中に説明の根拠を見つけるべきだというのが、私の方法論なのである。

そう考えて初めて、なぜ「水の中から、美しい上臈が小さい、本当に小さい一人の児を抱いて現れ」たかも理解し得るし、各地にある産女の話で、やつれた若い母が子を抱いてしょんぼり立っていて、通りかかった人にこの児を抱いてくれと頼み、頼まれた者が、その子が普通の人ならばとても我慢ができないほどに重くなるのを、じっと辛抱して女の帰ってくるまで抱いて待って居ると、非常に喜んで厚く礼を述べ且つ報酬をくれる。報酬は取れども尽きぬ金財布などであった場合と、その家に遺伝する大力の筋であった場合と、又二つに分かれているのである。



芥川龍之介が最初に描いたカッパ「水虎問答の図」＝「新潮日本文学アルバム」より

この産女が現れたという場処も、往々にして淵の上や池の堤、又は橋の袂などと言って、どうやら水の神と縁があったらしいが、これまでの人たちはその一致には心付かなかった」と言い「産女が何のために我が子を人に抱かせなければならなかったかが、次第に解しにくくなった」としていることも私の説によれば解決することができる。

私の考えでは、水の中から現れた上臈や産女は、幼な子を失った母親、または胎児を流してしまった悲しい母親の姿なのである。彼女たちは自分の「宝物」を心ある人に抱いてもらいたかったのであり、抱いた子供が重くなってきたのは、死んでしまった本当に小さい幼児や胎児が、母親の心の中で「僕も生きたんだよ！」とはかない自分の存在を精一杯主張しているのであり、また母親が、死んでしまった自分の子供の存在を、心ある人に訴えているのである。

子棄てや子殺し、異常出産や堕胎は、人間の歴史とともに実におびただしい数にのぼっていることは疑いもない事実であり、特に日本の場合、それらの多くの子供たちは、後にみるように日本の風土を縦横に流れる河川に棄てられたに違いないのである。現在のようにコンクリートの堤防で人と川を区切ってしまった我々には想像しにくいが、良きにつけ悪しきにつけ日本人は川とともに生きていたのである。

河童についても、私は川の中への捨て子だと思っている。柳田は『桃太郎の誕生』の中で「諸国の谷川の地名に小僧淵というものが幾らもあって、中には川童という妖怪が現れ、人を捕ったという類の口碑を伝えて居るものもあるが、その多くはもう由来不明になって居る」と言っている。昔の子供たちの遊び場としては、川は最も手近で魅力に富んでいたので、それゆえに最も危険に満ちた遊び場でもあった。

現代でも夏休みになると川遊びでおぼれ死んだ子供たちのニュースが後をたたないが、昔はその数は比較にならぬほど多かったに違いない。

（神奈川歯科大名誉教授）

漢方薬専門薬局・漢方処方調剤
大船の漢方薬
大船漢方堂
漢方薬専門薬局ですので、なるべく本人が御来店下さい。
〒247-0061 鎌倉市台1-3-10　TEL.0467(47)3311
営業時間：午前10時～午後7時　木・日・祝日休業

古書 芸林荘
古い本、お譲りください
芸能・美術・文学・宗教・和本・摺りもの等
10：30－18：00　月曜定休
鎌倉市雪ノ下1-5-38（小町通り）
☎0467・22・6533
出張買取無料

お香 香炉 香道具 匂い袋 高級線香 念珠 他
鎌倉に蘇える伝統の香り
香司 鬼頭天薫堂 鎌倉
鎌倉市雪の下1-7-5 小町通り八幡宮寄り
TEL. 0467-22-1081（代）
http://www.tenkundo.co.jp/

八幡宮前・蒲焼専門店
うなぎ 茅木家
☎（22）1460

Yanase かまくらカスター
雪ノ下本店　逗子店
鎌倉駅前本館（かの鎌倉）
ルミネウィング（大船）店